

「縁・えにし」のよろこび

各法要とも、コロナ対策を徹底して開座しました！

～秋の仏教婦人会法座～（10月31日）

コロナ対策を徹底して開座しました。楽しみでもありますがお斎の時間はありませんが、ご法話のお聴聞の時間を大切にしてお勤めさせていただきました。春・秋（年2回）の仏教婦人会法座、次回の春（5月予定）のご法座は、お斎が再開出来ればと思います。



仏婦会長

星野 奏真 師

～親鸞聖人・報恩講法要～（11月15・16日）

秋晴れの中、親鸞聖人のご仏事（761回忌）をお勤めしました。浄土真宗のお寺では、この法要を特に大切にお迎えいたします。今回もコロナ対策でお斎（お食事）・奏楽（雅楽）を中止となりましたが、今度の報恩講法要は、是非再開したいと思います。



安方 哲爾 師

～元旦会・除夜の鐘～（1月1日）

新年をお迎えして、元旦会のお勤めをしました。勤行（読経）・法話の後は、参拝者の皆さまに、紅白餅（メッセージ入り）を配布します。メッセージの内容は、気になった歌詞をピックアップして、仏法とのお味わいを掲載しております。多くの参拝者のお蔭で、108個の紅白餅が全て無くなりました。



～第97回・女性の会～（2月1日）

偶数月の1日・午後1時30分～を基本日程にして開催しております。宗祖の親鸞聖人がお示しになられた『正信偈』を、皆さまと味わっております。女性対象になりますが、ご興味ございましたら、どうぞお気軽にお参りください。



<今後の予定>
・4/4 6/1 8/1 10/2 12/1

～春季・彼岸会～（3月17日）

春のお彼岸入り前日にお勤め致しました。ご法話は住職が勤め、ご門徒様と共に阿弥陀さまのお慈悲をお味わいさせていただきました。一座の法座でしたが、多くのお参りを賜り、誠に有難うございました。



阿弥陀さまからのお手紙

『せすにはおれない』

福岡 義朝（広島県三原市 教専寺）

南米アンデス地方の民話にハチドリの話があります。現在の話は地球の環境問題における私達のすべきことの例話としてよく使われ、話題になっております。ほんとうに短い話です。そのまます記載します。

森が燃えていました。
森の生きものたちはわれ先にと
逃げていきました。
でもクリキンディという名の
ハチドリだけは、行ったり来たり、
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落とすしていきます。
動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい何になるんだ」と
言っています。
クリキンディはこう答えました。
「私は、私にできることをしているだけ」



このクリキンディというハチドリは、もちろん口ばしで水を運んで火事を消すことはできないという事は判っております。でも自分のすべきことも判っているのです。といます。これもこれは仏教の業（ごう）というものを表したお話とも受け取れるからです。業とは難しい言葉のように思えますが、要は行為ということ。何回も同じ行為を繰り返してパターン化した行為ということ。戦争ばかり繰り返しているということ。また、私達個人の業は幸せを求めながら苦悩の人生を送っているということになるかも知れません。

さてこの話ですが、とてつもなく大きな森の火事です。まず自分の身を案じて逃げ出すのが当たり前です。でもこのクリキンディというハチドリは今まで何千回、何万回とこういった行為を繰り返してきたことを知っているのです。ここで逃げ出したら、これからは何度も森の火事に出遭ってゆかなくては行けない。火事という大変な状況における自分のとる行為がクリアされるまでこの苦は繰り返されてゆく。だからこそクリキンディは報われたいと判っている。でも水を運びつづけてきた。でもクリキンディの流転してゆく生命から見れば、これこそ本当に報われてゆく行為なのです。

インドのマザー・テレサは路上で倒れている貧しい人々を助けてゆきました。最初はたった一人であったけれど、それができるのかと周り

は思います。でも彼女の一人の行為がだんだん大きくなり、世界中の人が知るようになってゆきました。しかしマザー・テレサが貧しく飢えている人々に手を差し伸べたのは、有名になる為でも大きな運動にする為でもありません。ただ彼女にできることをしているだけなのです。結果がどうなるかと路上で倒れた人々を見捨てる行為ができたのです。彼女は言います。「大きなことをするのはなく、まず自分の目の前の人に手を差し伸べなさい」と。

昔は「人が見ていようと見てまいと仏様が見ているよ」と言われたものでした。これは、損得や結果がどうなるかというよりも、仏様に見られている私が今取るべき行為ということを表しています。短いハチドリの話から私が思いつくことを記させて頂きました。

※住職が布教のご指導いただいている先生です

